

里づくり

人に学び、

地域に学び、

今できることから始める。

CONTENTS

- 地域づくりリレーインタビュー
株式会社 atLOCAL 代表 堀田悠希 さん
- ふる水事業実施地区紹介
七飯町七飯地区 七飯の食を考える会 さん
- 新規指導員紹介
- トピックス

地域づくりリレーインタビュー

ほった ゆき

堀田 悠希 さん



●堀田さんは現在「夢想農園」を営まれていらっしゃいますが、「実家も農家さんだったのでしょうか？」

私の実家は中札内村にある焼き肉屋で、農家になろうという気持ちがありました。最初からあったわけではありません。札幌の短大に進学して、「将来は札幌や東京で働きたい」と思っていたんです。しかし、短大在学中に母を亡くして、家業を継ぐことを考え始めました。飲食に携わる仕事に就くなら、農業も勉強したいと思って、中札内農協に就職しました。総合職に入ったので、事務から野菜の選別、営業等なんでもやらせてもらって、この時に学んだことが、今の色々な活動に繋がっていると思っています。その後、夫と出会い結婚して農家となりました。

●道の駅は、どうして携わることになったのでしょうか？

農家として・町民として、土幌町のみなさんと一緒に道の駅をつくる、まちを元気にしたいという気持ちから、道の駅の飲食・物販部門を担当。町内企業の公募に手を挙げたことがきっかけですね。今ではイベント開催や、内装のデザインなど、全体の運営もやらせてもらっています。

●新しいだけでなく、すごく素敵な空間づくりをされていますよね。

夏場はもちろん、シーズンオフの時も町民のみなさんにとって居心地の良い場所であってほしいと思って、テーブルを木から手作りしたり、照明もDIYしてみたり、キッズペ

ースを設けたり、くつろぎのスペースづくりを心掛けました

●そんな「ピア21しほろ」は初年度の来場者が44万6千人と当初見込みの1.5倍となった訳で、やはり色々ご苦労があったと思います。

そうですね。やっぱり、最初の頃は大変でした。まず、会社を立ち上げたのがオープンまであと1年を切ったというタイミングだったので、準備を駆け足で進めました。オープンを週間前にはどさんこワイドさんに30分の特集を組んでもらったりもしましたね。その効果もあってか、最初

堀田 悠希さん

夢想農園で農業を営みながら、道の駅ピア21しほろの飲食・物販部門を運営する(株)atLOCALの代表取締役を務める。ほかに、「とかち農業女子ネットワーク農と暮らしの委員会」を立ち上げ、現在もメンバーとして活動中。



の大型連休(のW)は1日8千人も来場!すごく嬉しかったんですけど、これが本当に大変で…。想像以上の忙しさに、対応に追われて休憩もとれなくて、社員が1人、また1人と倒れていった…。接客中に声が枯れてしまったり、泣き出してしまっスタッフがでたんです。「連休明けに半分は辞めるな」って声が聞こえましたね。このままではいけない、社員を守らなくては!と一度食堂を臨時休業にして、社員を全員休ませて、パートとボランティアと経営陣で対応することになりました。もう後は、自分が倒れないよう、まいつてしまわないようになんとか堪えて、5月の連休を凌ぎました。ありがたいことに、誰も辞める人がいなかったので一安心したんですけど…まだまだ、問題は山積みでした。そう、来場いただいたみなさまからのクレームの嵐です。

「ごはんが出てくるのが遅い」「生産者還元用ポテチとソフトクリームくらいしか買うものがない」などなど…。食堂に関しては、この時はまだハンバーグのたまねぎのみじん切りから全部自分たちでやっていたので、すごく調理に時間がかかっていた

たんですよ。量も提供できないので、10分で完売しちゃったりもしました。お土産コーナーも今の半分以上のスペースしかなくて、土幌町らしさがなかったんです。でも、落ち込んでられません。オープン時の荒波を乗り越えた気持ちを感じて、クリーム漬しに取りかかりました。毎日朝夕にミーティングを行い、どこを改善すべきか・伸ばすべきかなどを徹底的に話し合い、お盆時期に備えて内部改革を行いました。食堂の調理の時間を減らしつつ、手作りの良さを残せるような加工をしてくれる工場を探して、第一次製品の製造を委託したり、秋口からは、お土産品の開発を行いました。第一弾の「じゃがいも大福」は、今でも大人気商品です。その後、豆菓子、かりんとう、甘納豆など色々作って…すると、「道の駅スタッフ頑張ってるから、私たちも頑張らなくちゃね」って、地元のお母さんグループが菓子製造業の許可を取って、加工品会社「せわたま」さんを立ち上げてくださいました。せわたまさんの豆を使った美味しいようかんも、もちろんお土産コーナーで販売して

いますよ。こつこつ風に、まちのみんなでこの場所をつくりあげていくことができる、やっぱり嬉しいですね。入り口の方にある野菜の直売コーナー「おすそわけ野菜市」も、最初は「この辺は大規模農業ばかりだから、集まらないよ」と言われていたんですが、農家のおばあちゃんたちが家庭菜園レベルでいろいろつくっているのは知っていたので、声をかけていって少しずつ始めていきました。具体的には、中核になる農家さんを最初に決めて、企画書を持っていて協力を願って、そこから公募をかけて参加農家を増やして組織

化していきました。すると段々、「こつこつ」だったんだけど「試食に使えないかな」と逆に声を掛けてもらえるようになりました。今では27軒ほどが仕入れ先になっています。こつこつやり方は、農協に勤めていた時の経験が生きているなあと思います。(笑)

●この場所は、みなさんの力でつくられているんですね。堀田さんが普段の活動から心掛けていっていることがあれば教えてください。

スタッフをよく見ることに！経営者



とスタッフとの距離感は、そのまま職場の雰囲気に影響して接客にも反映されると思っています。これは、aLLOCALの目標なのですが、社員さん・パートナーの能力を8割以上引き出せるような職場でありたいと思っています。「やりたいことがあったらなんでも言うってね」と普段からアイデアを募集するようになっていきます。例えば、ピラスづくりが得意な人の商品を実際にお店に置いたり、ハーバリウムづくりができる人にはワークショップをお願いしたりしています。もちろん、売り上げは持って帰ってまいります。こういっていい



また頑張ろうっていう気持ちに繋がりますよね。あとは、農家さんあるあるなんですけど…、直売コーナーに出してもらおう野菜の価格設定を低くしすぎてしまう人がいるんですよ。そういったことには口を出すようにしています。安くしすぎると、後から出す人がそれ以上の値段をつけられなくなってしまうこともあるので、適正価格にすることは大切です。

●堀田さんの想い、行動力は素晴らしいですね。中々、ここまでできる方はいらっしやらないかと思いますが…

そんなことありませんよ!「もっと色々なことをやってみたい女性」は、土幌町に限らずとても多いと思います。同じ「ちょっとマルシェやってみてみたいな」でも、個人でやる方、仲間とやる方、行政とやる方、地域づくりまちづくりとして関わりたい方、色々いらっしやると思います。なので、行政や三セクも、こういった女性にきちんと対応してもらえる窓口が増えたらありがたいなあと思います。

●もちろん、私たちも応援できるところがあれば全力で支援させていただきます。それでは、最後に地域づくりに関して一言いただけませんか?

市町村は価値の宝庫です。その町その町に色々な価値があり、とっても魅力的。まちがどうやってプレイヤを育てるか、という点がポイントになってくると思います。自分の場合、土幌町長が28歳の女性の私に、ポンと道の駅のレストランの運営をまかせてくれました。こういうこと(道の駅運営等)は行政だけで抱えてしまいがちですが、民間や、未来ある若い人たちにまかせることも大切だと思うんです。まかせられると、こっちも骨を埋める覚悟で頑張ろうって思えます。

一番大事なのは、自分のためではなく、町民のためにどれだけ行動できるか。うちも開業当初はクレームもたくさんいただいて、辛いなと思ったこともありましたが、会社に例えてみたら町民=株主なんですよ。クレームがあってもきちんと対応すれば納得してもらえるとだと思います。むしろ、常に見張られているんだ

って、背筋が伸びますね。私利私欲に走ると、きつとつまういかなくなると思うんです。みんなが楽しめる場所であることを一番に考えて、これから頑張っていきたいと思います!

●堀田さん、貴重なお話をありがとうございました!



今年度、新たに北海道ふるさと・水と土指導員に委嘱されました。

鷹栖町
池田修也さん

農業者であり、大雪土地改良区の理事を務めており、地域の農地、農業用水、水利施設の維持保全に取り組んでおられます。

また、農業以外では小学校のPTA、子供会、お祭り等の行事に積極的に参加し、行政等からも信頼があり地域のリーダー的役割を果たしていらっしゃいます。



蘭越町
松山廣さん

蘭越土地改良区の総代を2期、理事を4期歴任されており、土地改良事業に精通されています。

地域の幹線用排水路等土地改良区施設の維持管理に地域リーダーとして中心的な役割を担っており、災害対応についても指導的役割を果たされています。



これからどうぞよろしくお願ひいたします!

●あなたのまわりに、ふる水事業を使って地域住民活動がしたい方はいませんか？

あの人、活動をすごく頑張っているから応援したい！
行政から支援を受けられるようなものはないかな…？

地域にそんな方がいらっしゃったら、是非ふる水事業をおすすめしてください！

事業が気になる方、やってみたい方がいらっしゃれば、担当者が御説明に伺います。

[パンフレット詳細は↓↓]

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/ski/furumizu/furumizu_pannhunew.pdf



事業実施地区紹介～七飯町七飯地区・ななえの食を考える会～

小さな頃に何を食べて育ったか…

子どもの頃の「食」の体験は、その後の人生に大きな影響をあたえます。それが豊かなものであればあるほど、味覚の中にその記憶を残し、何かしらの道標となるはずです。

七飯町の「食材」や「食文化」を食のふるさととして、次の世代へつないでいくために、2015年、数名の主婦が中心となり「ななえの食を考える会」が発足しました。

私たちが
七飯町のスーパー主婦！



事業では、地元の小学校（全校児童20名）の食育活動を3年間実施しました。

年3回、児童と一緒に「食」に関する体験を企画。その年の最後には給食をストップさせ、一流シェフと一緒に調理をした物（洋食・和食・お寿司）が給食になります。1年目は「オール七飯のフルコース」。前菜プレートは、ななえパレットとシェフが名前を付け、子ども達は調理する食材の変化に驚き、感動していました。2年目は大豆を学習し、すり鉢で飛龍頭をつくり本格的な「和食」に挑戦しました。また、家庭でもできる味噌づくりでは、半年後の完成を楽しみに豆をつぶしたり、丸めたりと真剣な眼差しで取り組みました。最終年では「普段の食事」をテーマに、厚焼き玉子や太巻きを作り、また、前の年に収穫した大豆で豆腐作りもしました。

どの場面も、子ども達の味覚と視覚に残ることでしょう。

事業が終了してからも、子どもへの食育活動は地域の会館や学校でのPTAで継続していきたいと模索しています。

他にも、七飯町の道の駅では大人向けの料理教室を毎月開催しており、「地元野菜を使っただおもてなし料理」をつくって、味わって、地域の食材を広めていっています。

また、今年は北海道開発局の「わが村は美しく北海道」にて奨励賞をいただきました。そのことで、会のメンバーの意識も一層高まってきています。これまでの3年間の繋がりで、生産者さんや料理人の方々も応援してくれて、一層楽しくなりそうな2019年です。

メンバー個々も個人事業者を目指す方向で活動を進めており、会としても、メンバーとしても、今後の活動が楽しみです！

ななえの食を考える会

公式HP



平成30年度各研修開催結果

道東ブロック

日程：7月24日(火)～25日(水)
場所：弟子屈町、鶴居村
出席：16名(指導員7名)
内容：ア 講演 「てしかがエコマち協議会の活動について」
講師 木名瀬 佐奈枝 氏
イ 活動報告 服部指導員、水本指導員
ウ ワークショップ
エ 現地視察 ハートンツリー

道南ブロック

日程：11月12日(月)～13日(火)
場所：七飯町、森町
出席：16名(指導員8名)
内容 ア 講演 「地域が元気になる～地域活動を考える～」
講師 山本 忠男 氏
イ 活動報告 七飯の食を考える会
ウ 現地視察 なないろななえ
エ ワークショップ



道北ブロック

日程：8月1日(水)～2日(木)
場所：中頓別町、豊富町、稚内市
出席：15名(指導員6名)
内容：ア 講演 そうや自然学校で働く地域おこし協力隊活動について
講師 加藤氏、北川氏
講演 中頓別の概要、特徴や観光振興計画について
講師 中頓別町 三浦主査
イ ワークショップ
ウ 現地視察、活動報告 菊池指導員

現地研修

日程：10月23日(火)～24日(水)
場所：石狩市、岩見沢市、栗山町、夕張市
出席：22名(指導員15名)
内容：ア 現地視察、講演「NPO法人 ezorock について」
講師 草野氏、大熊氏
イ 現地視察、活動報告 小西指導員
ウ 講演「菅野牧園について」菅野 氏
活動報告 金丸指導員
エ 講演 夕張市 佐藤主幹



地域づくり研修会

日程：平成31年2月13日(火)
場所：ANA クラウンプラザホテル 24F
出席：80名(指導員26名)
内容：基調講演
講師：(株)studio-L 山崎 亮 氏
パネルディスカッション
コーディネーター 山崎 亮 氏
パネリスト
山形県ふる水指導員 鈴木 正 氏
山形県ふる水指導員 田中 俊昭 氏
北海道ふる水指導員 田中 いずみ 氏

全国研修

日程：平成30年9月13日(木)～14日(金)
場所：東京都
出席：88名(北海道から指導員3名)
内容：ア 講演
・「プロモーションに頼らない！無名の地域をブランド化する方法
「まちいくふじかわ」本菱の事例から」 深澤 氏
・「地域資源のブランド化と販路開拓」 黒川 氏
・「女性パワーで！「大地の恵み・人・思い」を活かした商品開発」 山口 氏
イ 活動紹介
・「住民との交流を通じてふるさとの魅力を発信」 盛田 氏
・「楽山人塾＝駿大版ダッシュ村 in 飯能市上名栗」 平井 氏



今年度は災害の多い年でしたね。そんな中、たくさんの御参加をありがとうございました。
来年度も実施しますので、指導員のみなさまの御参加をお待ちしております。



Facebook
はじめました。

のうたび・ほっかいどう
農たび・北海道

食べて、泊まって、体験して……

そこにしかない魅力を活かし、

地域が一丸となって観光客を受け入れる農村ツーリズムを

”農たび・北海道”の愛称で道は応援しています。



農たび・北海道